自閉症の特徴に関して

自閉症の基本的特徴は、「対人的相互反応」および「コミュニケーション」の著しい異常またはその発達の障害と、たいへん限られた「活動や興味」のもち方、という点にあります。これらの特徴は、単に、発達的に遅れているとか、年齢相応の行動が少ないといったことだけではなく、その振る舞い方や、その行為をする意味において、質的に異なっているところがあります。また、これらの特徴は、発達水準や年齢の推移に従って大きく変化することも分かってきています。次に、彼らの示す行動の特徴を、アメリカ精神医学会によるＤＳＭ－Ⅳの基準にそって具体的に紹介していきましょう。

＜人との関わり方の障害＞

(a)人と関わる際に必要な、話し言葉以外のコミュニケーション方法（これを、非言語的コミュニケーション行動といいます）を使わなかったり、動作や反応面で障害がみられたりします。具体的には、目と目で見つめ合う、顔の表情、体の姿勢、身振りなどに、このような障害が現れます。

(b)発達に相応した仲間関係を作ることに障害が見られます。年少の頃には他者に関心をもたないこともあり、他者からの接近を避けたり、孤立することを好むこともあります。また年長になるにつれて交友関係に関心を示すようにもなりますが、人とのつきあい方（話し方やルールの理解）に問題が生じることもあります。

(c)楽しみ、興味、達成感を他人と分かち合うことができません。特に、これらを他者に自発的に求めることをしません。具体的には、興味ある物を指し示したり、友達に見せること、一緒に楽しむためにおもちゃを持って来るなどの行動が、年齢に比して極端にみられません。

(d)人との関わりや、情緒的な交流が見られません。例えば、集団で遊んだりゲームなどに参加することよりも、一人遊びを好みます。また、他人を“人として関わりをもつ”ためよりも、物や道具として扱う（例えば、高いとことにある物を手に入れるために他人の掴んで誘導する、常同行動をするための道具として他者の手を使うなど）ことがあります。また、他者の存在に気づくことがなく自分本位に振る舞うこともあります。

＜コミュニケーションの障害＞

(a)多くの自閉症児に話し言葉の発達の遅れがみられ、その中には話し言葉がまったく見られない場合もあります。また、話し言葉がみられなくても、身振りやジェスチュアーなどの非言語的なコミュニケーションの仕方を使って補おうという努力がみられません。

(b)また会話の可能な者でも、他者と会話をする際に必要な、会話を始めたり会話を続けたりする際の技能やその努力が欠けていることもあります。さらに、会話をする際に、音程、抑揚、速さ、リズム、あるいはアクセントに異常が見られるかもしれません。

(c)会話については、文法的構造がしばしば未熟で、特定の単語やフレーズを繰り返したり、同じことや内容にこだわる（これを、「常同的反応」といいます）ことがあります。さらに、個人的で特有な言葉を用いることもあります。言語理解も遅れることが多く、単純な質問や指示を理解することができない場合から、状況に即した言葉の理解が苦手なこともあります。

(d)幼少期において、発達水準に相応した遊びの発達が見られないこともあります。例えば、想像的な遊びやごっこ遊び、社会性をもった物まね遊びなどをしようとしなかたり、全く見られないこともあります。

＜限定された範囲での反復的、常同的な行動、興味、活動＞

(a)たいへん狭い範囲での興味を示すことが多く、例えば、日付、電話番号、時刻表などに異常なほどに興味を持ち続けることがあります。

(b)同じ数のおもちゃを同じやり方で何度も繰り返し並べたり、繰り返しテレビのタレントがする動作のまねするかもしれません。また、家具の配置換えや、夕食時に新しい食器を使うなどといったほんの小さな環境の変化に対して、突然かんしゃくをおこしたり、大きな混乱を示すかもしれません。このように、彼らは“同じであること”にこだわり、ごく小さな変化に対しても抵抗を示したり苦しんだりするのです。さらに、特定の習慣や儀式に強い興味をもつ場合（例えば、毎日、同じ道順で学校に行くことなど）もあり、これに従うことができない場合には強く抵抗を示すこともあります。

(c)常同的で反復的な運動反応としては、手や指をぱたぱたさせたりねじ曲げる、または複雑な全身動き、物を使った一定の動き（ひもを振り続ける）などがあります。これらの反応は、周りから見て奇異に映るかもしれませんが、本人は周りの状況に関係なくこれらの反応を続けます。

(d)物の一部に対して持続的に熱中したり（例えば、ボタンや体の一部分）、動く物に対して強い興味を示すこと（扇風機や換気扇、ドアを閉めたり開けたりすること、早く回転する物体など）もあります。

以上のように、自閉症は、主として３つの領域において、種々の障害や行動の特徴を示します。そして、これらは少なくとも３歳以前に始まります。またこれらの障害や行動特徴のうち、いくつかの項目が該当する場合、「自閉症」という診断がなされます。ＤＳＭ－Ⅳでは、自閉症の診断基準を満たすための、各領域毎の項目数を決めています。

自閉症は、ＤＳＭ－Ⅳでは、「自閉性障害」とよばれ、人口 10,000 人に対して約 5 人が発症し、男子で女子の約 4～5 倍の高さで発症すると言われています。また、この障害の上位の概念としては、「広汎性発達障害」とよばれ、知的障害のある「広汎性発達障害」の児童生徒は、1,000 人に１～２人と言われています。

学級担任の記録（メモ）

＜項目の利用回数＞